

資料 1

第1回委員会の指摘事項の対応

| No. | 指摘事項 | 対応 |
|-------------------------------|--|---|
| 地質調査および液状化の予測・判定結果について | | |
| 1 | 3.11の地震動での液状化被害は、Fs層とAs1層が支配的な要因だったこと、また、Bs層、Fc層、As2層、Asc層の扱いや、舞浜3丁目の被害状況と地盤性状との関係が課題である。 | ----- |
| 2 | Bs層の扱いについては、液状化の可能性と被害状況、降雨による水位上昇、Vpから推察される不飽和状態などを考慮して評価する必要がある。 | 浅い深度に出現するBs層については、別途ブロックサンプリングを実施して地盤の液状化強度を求める試験を実施します。また、不飽和状態の液状化強度も試験を実施して評価致します。 |
| 3 | Fc層を粘性土として判定対象外とするだけでは不十分である。 | Fc層に挟む砂質土層(部分的なFs層)を再整理して評価致します。 |
| 4 | As1層、Fs層に対する改良を行う場合、Bs層、Fc層も改良される箇所があり、設計においては、個別の判断が必要になる。 | ----- |
| 5 | 改良下端の設定については、設計において、費用対効果での評価が必要である。 | ----- |
| 7 | 舞浜3丁目に関しては、旧河道とそれ以外の場所の地盤構造の差が非常に大きく、壁の設置位置と密接に関係しコストへの影響が大きいことから、地盤の特性をもう少し詳しく把握する必要があり、その整理の中で、追加調査が必要になる可能性がある。 | 宅地で実施されたSWS(スウェーデン式サウンディング)の結果を提供頂き整理を行っております。整理した結果を含めて不足する場合には追加地盤調査を実施します。 |
| 8 | 建築基礎構造設計指針と室内試験結果との比較は細粒分含有率35%以上の補正や拘束圧の補正の考え方などを整理して評価する必要がある。 | 再精査を進めています。 |
| 格子状地中壁工法の設計方針・設計計画について | | |
| 9 | 設計や施工方法の工夫により、コスト縮減の可能性を評価することが必要である。 | 各地区の設計解析を現在進めています。その中で指摘事項を考慮するように努力しています。 |
| 10 | 2次元地震応答解析(有効応力法)の初期応力状態(静止土圧係数K0など)の設定は慎重に行う必要がある。 | 御指摘の通り、初期応力状態の確認や被災状況の再現性を確認しながら設定しておりますので、引続きご指導を賜りながら進めていきます。 |
| 11 | FL=1.0と液状化状態の関係、液状化と被害との関係は区別して説明する必要がある。 | そのように配慮して設計を進めてまいります。 |
| 12 | 入力地震動は、使用する解析方法と中町地区における観測記録等との関係性を評価して設定する必要がある。 | 地震動の妥当性を検証いたします。 |
| 13 | 改良上端深度は、地下水位、埋設管との関係、壁構築後の地下水位上昇の有無などに配慮して設定する必要がある。 | 指摘事項を考慮して設計を進めていきます。 |